

日本近世の芸能文化に関する研究

神田 由築 / KANDA, Yutsuki

文教育学部人文科学科

■専門分野 日本近世史
■キーワード 近世、都市、芸能、文化、地域

連絡先

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

日本の芸能文化の歴史のなかで、とりわけ 19 世紀の近世から近代への移行期は、いわゆる今日の伝統芸能なるものの「伝統」性が形成された重要な時期として注目される。そこで、19 世紀の芸能文化のありようを、芸能文化をとりまく社会環境の変化（「伝統」形成の外的要因）、芸能作品の内容（「伝統」形成の内的要因）の二側面から描き出し、近代から現代にまでつながる伝統芸能の展開過程を見通すことをめざしている。

■応用・将来展望

文化史の研究には、通時的に事象を見通すマクロな視点と、一つ一つの事実を確定するミクロな視点が必要である。今後も基本的にはこの二つの視点をふまえて芸能文化の展開過程を追う予定であるが、とりわけ芸能者の視点からみた「地域」社会の様相をとらえてみたい。すなわち、「地域」を具体的な事象にもとづき歴史の文脈のうえで問い直す作業である。こうした研究成果が活かせる分野としては、伝統芸能に関する文化政策や、「地域の活性化」という課題を抱える地方政策などが考えられる。

■活動実績

- 2011 年度～2014 年度 科研基盤研究 (B) 「近世～近代日本における遊廓社会の比較類型史研究」(研究分担者)
- 2011 年度～2015 年度 科研基盤研究 (B) 「被差別民衆史・研究方法論」(研究分担者)
- 2012 年度～2014 年度 科研基盤研究 (C) 「日本近世の芸能作品にみる「物語」の生成と社会像の再構築」(研究代表者)
- 2012 年度～2015 年度 科研基盤研究 (B) 「社会的上下感覚の比較的研究」(研究分担者)
- 2014 年度～2016 年度 国立歴史民俗博物館公募型共同研究 (基盤研究) 「近世の一枚摺文化の受容と都市社会の研究」(研究代表者)

主要研究成果

- 「近世「芝居町」の社会＝空間構造」、単著、『東京大学日本史学研究室紀要 別冊 近世社会史論叢』、査読無、19-37 頁、2013 年 4 月
- 佐賀朝・吉田伸之編『シリーズ遊廓社会 1 三都と地方都市』、共著、「江戸の子供屋」、67-91 頁、吉川弘文館、2013 年 8 月
- 大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編『岩波講座 日本歴史 第 13 巻 近世 4』、共著、「芸能と文化」、287-321 頁、岩波書店、2015 年 3 月